

# 特集

# 農業を 未来へつなぐ

中野市で働く人の割合が最も多い産業、それは農業―。

農業は、中野市を支える重要な産業といえますが、農業に従事する方の平均年齢は60歳を超え、高齢化が進んでいます。

また、農業後継者についても、半数近くの農家で後継ぎが決まっていないというアンケート結果が出ています。

さらに、10年後の田畑の規模については、縮小または農家をやめ

ると考えている人が約4分の1にのぼり、10年後、20年後の中野市の農業が心配な状況です。

皆さんは「農業」にどんな印象を持っていますか？

「重労働で大変そう」

「休みがなさそう」

「稼げないんじゃないか」

そういった声がよく聞こえてきます。

一方で、後継者として就農し、希望を胸に、ふるさとで農業を営む若者がいます。

また、「農業を仕事にしたい」と都会から移り住み、市内で挑戦している若者がいます。

彼らはどのように就農し、どういった想いで農業に取り組んでいるのでしょうか。

今回の特集では、市内で活躍する若手農業者の姿を通して、中野市の農業を未来へつなぐヒントを探します。

